

# ミステリ読書案内

2022. 8. 24 発行元

第389号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 青崎有吾 特集

定例になっている大学サークルOB会で青崎有吾の『水族館の殺人』をゼミ本として扱うことになった。それに合わせて『青崎有吾特集』を組んでみようと考えた。「平成のエラリー・クイーン」の魅力を話そう。

### デビューと『体育館の殺人』

青崎有吾がデビューしたのは2012年に『体育館の殺人』で鮎川哲也賞を受賞した時である。密室状態に近い体育館の中で放送部員の生徒が殺された事件。ほんのちょっとした隙間の時間帯のわずかな手掛かりからのロジックの組み立てが見どころ。

でも、この作品、この年の年間ランキングにはかすりもせず、なおかつその年の新人賞受賞10作品中の第9位という評価の低さだったのだ。「本格もの」ミステリという観点に立つ読者の少なさを物語っている。私はそれなりに面白いと思ったのだが…。

現在創元推理文庫に収録されている『体育館の殺人』はかなりの手直しが入った改稿版である。

### 第二作『水族館の殺人』

2013年に出版された第二作が『水族館の殺人』。こちらは年間ランキングの30位くらいに顔を出すようになり、本格ミステリ大賞の候補にもあげられた。

夏休み。前作で大活躍だった風ヶ丘高校の袴田柚乃は卓球部の練習

試合に。新聞部の向坂香織は横浜丸美水族館へ取材に出掛ける。水族館の館長の案内で見学している途中で、サメが飼育員の男性に食いつく場面に遭遇。ここから今回の事件は始まる。

仙堂警部や袴田兄刑事の警察の捜査が開始になるが、関係者11人のアリバイが成立してしまう。しかたなしに仙堂警部は前作で犯人を見つけてくれた裏染天馬に出馬を依頼する。柚乃と天馬は現場の水族館に強制的に引っ張り出された。

パトカーで移動中に天馬はたちまちにある程度の推理を構築する。そしてプールの上にあるキャットウォークへ……。

### 『犯人当て』として考えると

「読者への挑戦」は初版本の時はなかったもの。文庫版にする時に入れた。『体育館の殺人』もそうだけれども、『水族館の殺人』の「犯人当て」もかなり難しい。ある着目物を土台にして推理を深め、また次の着目物で犯人を絞り込んでいく。綱渡りに近いなと思ってしまう。

先へ先へと読み進めている時には作者の流れで一応「そうかそうか」と納得した気持ちなのだが、そ

### 青崎有吾作品リスト

1. 体育館の殺人
2. 水族館の殺人
3. 風ヶ丘五十円祭りの謎
4. アンデッドガール・マダーファルス1
5. 図書館の殺人
6. ノッキンオン・ロックドドア
7. アンデッドガール・マダーファルス2
8. 早朝始発の殺風景
9. ノッキンオン・ロックドドア2
10. アンデッドガール・マダーファルス3

この他に『ネメシスVI』も手掛けているが、青崎有吾の特徴があまり出ているとは言えない。

の決めつけに無理がありそうにも見える。時間のアリバイにしても、想定外のことが起これば、たちまちに犯人の計画は狂ってしまう。

まあ「本格ミステリ」にはそんな部分がついて回るのは仕方ないところか…。

### それ以外の作品について

『アンデッドガール・マダーファルス』シリーズについては第260号で取り上げたので、そちらをご覧いただきたい。『裏染天馬シリーズ』とはまったく違う世界の話だが楽しめるはず。

『ノッキンオン・ロックドドア』『早朝始発の殺風景』はいずれも短編集。こうしてみると、「本格もの」のロジックの組み立ては短編の方がより特徴を発揮できるのかもしれない。寡作なので、次作がいつ出るのかはわからない。

### 『風ヶ丘五十円玉祭りの謎』

2014年東京創元社。『裏染天馬シリーズ』の第三作に当たる。『体育館』『水族館』は長編だが本書は短編集。5編+おまけという構成。

表題作の『五十円玉祭りの謎』は、1991年に若竹七海が謎を提案して、他作家がさまざまな解答編を作成した『競作・五十円玉二十枚の謎』に因んで独自に工夫した作品である。風ヶ丘の神社の夏祭り。多くの出店のおつりに五十円玉がたくさん出回った。300円のたこ焼きを買って500円玉を出すと4枚の50円玉のおつりが渡されるという現象。この謎に裏染天馬と妹の中学生・鏡華の二人が挑む。もちろん向坂香織なども加わり、情報集めに奔走する。さて、天馬が推理した結論は…。

論理で組み立てられた推理の積み重ね。これが青崎ミステリの一番の土台であり、短編の中でもその特徴を十分に発揮している。長編とは違って「日常系の謎」が中心になるが、推理の切れ味は変わらない。